

2024年7月5日

関係各位

株式会社パテント・リザルト

【化学】他社牽制力ランキング 2023

トップ3は富士フィルム、三菱ケミカル、花王

弊社はこのほど「化学業界」の特許を対象に、2023年の特許審査過程において他社特許への拒絶理由として引用された特許件数を企業別※に集計した「化学業界 他社牽制力ランキング 2023」をまとめました。

この集計により、直近の技術開発において競合他社が権利化する上で、阻害要因となる先行技術を多数保有している先進的な企業が明らかになります。

集計の結果、2023年に最も引用された企業は、1位 富士フィルム、2位 三菱ケミカル、3位 花王となりました。

【化学業界 他社牽制力ランキング 2023 上位10社】

順位	企業名	引用された特許数
1位	富士フィルム	3,607
2位	三菱ケミカル	1,803
3位	花王	1,464
4位	レゾナック	1,424
5位	積水化学工業	1,096
6位	旭化成	1,072
7位	日東電工	1,058
8位	住友化学	873
9位	信越化学工業	746
10位	D I C	695

※ 当ランキングは、企業グループを考慮した名寄せ処理を用いて算出しています。

【ランキングの集計対象について】

日本特許庁に特許出願され、2023年12月までに公開された全特許のうち、2023年1月～12月末の期間に拒絶理由（拒絶理由通知または拒絶査定）として引用された特許を対象に、抽出・集計を行っています。

また本ランキングでは、権利移転を反映した集計を行っています。2024年5月時点で権利を保有している企業の名義でランキングしているため、出願時と企業名が異なる可能性があります。

なお各企業の業種につきましては、総務省の日本標準産業分類等を参考に分類しています。

1位 **富士フィルム**の最も引用された特許は「有機電界発光素子」に関する技術で、半導体エネルギー研究所の計9件の審査過程で引用されています。このほかには「液晶ディスプレイ用の防眩フィルム」に関する技術が引用された件数の多い特許として挙げられ、日東电工などの計7件の拒絶理由として引用されています。

2023年に、富士フィルムの特許によって影響を受けた件数が最も多い企業はキヤノン（260件）、次いでコニカミノルタ（114件）となっています。

2位 **三菱ケミカル**の最も引用された特許は「ガスバリア性フィルムの製造方法」に関する技術で、大日本印刷の計5件の審査過程で引用されています。このほか「赤外発光蛍光体」に関する技術が引用された件数の多い特許として挙げられ、パナソニックなどの計4件の拒絶理由として引用されています。

2023年に、三菱ケミカルの特許によって影響を受けた件数が最も多い企業は大日本印刷（55件）、次いで日東电工、積水化学工業（いずれも35件）です。

3位 **花王**の最も引用された特許は「使い捨ておむつ」に関する技術で、ユニ・チャームや大王製紙など計6件の審査過程において拒絶理由として引用されています。このほか「歯磨剤用顆粒の製造方法」に関する技術が引用された件数の多い特許として挙げられ、SUNSTAR SUISSE（スイス）などの計6件の拒絶理由として引用されています。

2023年に、花王の特許により影響を受けた件数が最も多い企業はユニ・チャーム、大王製紙、資生堂（いずれも55件）、次いで小林製薬（49件）となっています。

4位 **レゾナック**は「ミリ波レーダー用プリント配線板」、5位 **積水化学工業**は「皮脂及びアルコールへの耐性が高く、強固に接着される電子機器部品用の積層体」が、最も引用された特許として挙げられます。

* * *

また弊社では、ランキングデータを下記の通り販売しています。

【化学業界 他社牽制力ランキング 2023 データ】

▶納品形態：以下のデータを収録したエクセルファイルをメールで御納品※

（※データー式を収録した CD-R での御納品をご希望の場合はご相談ください）

- ・ランキング トップ 50 社：本業界の被引用件数上位 50 社のランキング
- ・被引用件数 トップ 100 件：本業界の被引用件数上位 100 特許、及び引用先の特許との対応

▶価格：50,000 円（税抜）

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社パテント・リザルト 事業本部 営業グループ

URL : <https://www.patentresult.co.jp/>

e-mail : info@patentresult.co.jp